

日本語を生かした将来キャリアの希望

名前: ユダ フェブリヤン

学生番号: 2508379

大学名: インドネシア教育大学

実は、日本語を生かした将来のキャリアに対して大きな希望を持っています。たとえば日本語がよく話せるようになれば仕事は次々と舞い込んでくるのか人生はより楽になっていくのか全然わかりません。でも、大きな希望を持っているのは間違っていないです。私はあのことを信じています。日本語を勉強するのは全然簡単ではありませんから、いろいろなものを犠牲にしなければなりません。時間をはじめ努力やお金など、それはほんの一部です。最近、友達に日本語を勉強しなくなりました。

理由はたくさんあります。友達の一人は「最近、日本語がつまらなくなった」と言いました。あの言葉を聞いて、いろいろと考えさせられました。もし、私も日本語がつまらなくなったら、どうやって日本語が上手になれるのでしょうか。そして、私は一つのことを考えています。「たとえ日本語がつまらなくなっても、大きな夢をかなえるために、日本語を勉強しなければならない」ということです。私は日本で働いて住むことに興味があります。どんな仕事かはわかりませんが、空港やホテル仕事に興味があります。

この前に私は先輩方と話しました。インターンシップのことです。先輩方はビンタン-さんとイビン-さんです。ビンタン-さんは今年インドネシアに帰国しました。ビンタン-さんは去年日本の空港でインターンシップしました。彼の仕事はグラウンドハンドリングだと言いました。「グラウンドハンドリングはどんな仕事ですか。」と聞きました。グラウンドハンドリングは、飛行機が安全に動くために、いろいろなお手伝いをしました。

たとえば、このような仕事があります。一つ目はお客さまのチェックインをしたり、チェックインをかくにんしたりしました。二つ目はお客さまの荷物を飛行機に入れたり、出したりしました。三つ目は飛行機を正しい場所に案内しました誘導。四つ目は飛行機の中を掃除したり、ガソリン燃料を入れたりしました。ビンタン-さんの話によると、彼は月曜日から金曜日まで働いて、一日中は午前9時から午後5時まででした。

あの話を聞いて、私はグランドハンドリングに興味があるようになりました。

でも、空港でのインターンシップは今なくなりましたと言われました。もし、将来機会をいただけるのであれば、絶対にその機会を無駄にはしません。でもその仕事のほかに、私は留学にもかなり興味があります。ですからその夢のために私は日本語を一所懸命に勉強しています。